

林野庁 北海道森林管理局 釧路湿原森林ふれあい推進センター

平成27年度 年報



夏の学校林活動

なちちゃんべつ
標茶町中茶安別小中学校の学校林「るるんフォレスト」で夏の学校林活動が行われ、当森林ふれあい推進センターはこの活動を支援しました。

今回の学習テーマは、「引き継がれる生命」。樹木が次の世代の木を、どう誕生させるか？

ミズナラを題材にドングリからの発芽、切り株からの萌芽を学習しました。

写真は、ミズナラの切り株を前に萌芽を観察中のようすです。

釧路湿原森林ふれあい推進センター

平成 27 年度 年 報

目 次

1. この1年を振り返って	1
2. トピック	
「広葉樹林育成における動物の食害について」	2
3. この1年間の取組み	6
・自然再生・生物多様性の保全	9
・森林環境教育	15
・その他の取組み	22
4. 活動区域及び所在地	29

この1年を振り返って（特に雷別地区自然再生事業について）

隔靴搔痒の感緩む。

私が当センターに赴任して丸3年が経過しました。当初は、植栽した広葉樹苗はエゾシカの食害により極めて低い生存率を示し、地掻きを行えど天然性実生の発生本数は少なく、実施計画に記載されている笹原から森林への再生のイメージは浅き夢のような感を覚えました。同時に、森林の再生は一知半解の知識では実現できない非常に難しい課題だとも感じました。森林再生のためには須くエゾシカ食害対策を施すべき、との考えから、ボランティアの協力を得て植えられた苗には食害防止用の半透明の筒（ツリーシェルター）を被せ、その他の笹原にもエゾシカ侵入防止柵を設置しました。苗の植栽と主にケヤマハンノキの天然性実生の発生・生長により、地掻き・地拵えを行った全区画における平均の更新指数^{解説}は平成25年度の0.2から平成27年度には0.7と飛躍的に向上し、更新（森林の世代交代）に十分な指数とされている指数1.0に近づくに至りました。

喫驚と新たな命題

以上の結果を携えて釧路湿原自然再生協議会森林再生小委員会に臨んだところ、委員からハッと気付かされ、かつ、傾聴に値する要望が提出されました。それは概ねこのような内容です。「森林再生を進めるには現在のところエゾシカ侵入防止柵の設置は必要であるが、民間ではその資金が無いので民間での森林再生は進まない。ケヤマハンノキ以外にもエゾシカによる食害を受けにくい樹種があるものとするので、鹿侵入防止柵を使用しない森林再生の手法を確立して欲しい」。冷静に考えるに、国の組織は予算の裏付けがあるが故に資金を投じて森林再生を行うことができ、言うならば「官製による森林再生」ですが、一森林所有者が同様の手法で行うのは困難です。民間が投ずることができる資金レベルで森林再生を進め、そのモデルを示さなければ、民間での森林再生は進みません。民間にも応用できる低コストの森林再生技術の開発。新たな命題がここに生まれました。

技術と再現性

森林の分野に限らず、技術というものは、普く、再現性が求められます。森林に関する限り、2つとして等しい環境というものは存在しないため、再現性は「高い」「低い」という相対的評価にならざるを得ません。また、森林を取り巻く環境は多岐に及ぶため、技術の開発は困難を伴います。ある試験を行ったところ、往々にして好成績と不成績に終わる場合が生じます。しかし、何故好成績なのか、何故不成績なのか、客観的な検証が不可欠です。多岐に及ぶ森林の環境下では、多くの試験とその検証が必要です。どの程度の再現性があれば技術として認め得るのかは開発しようとするものの内容で異なるものと考えますが、第三者の視点から高い再現性が認められ、他の森林にも応用できる高い信頼性と移転性を伴って、始めてそれは確立された技術と言えるものと考えます。今後、このようなことを十分に踏まえて技術の確立に取り組む所存です。

（所長 網倉 和弘）

解説

「更新指数」とは、更新に必要な苗の基準本数を高さや太さに応じた区分ごとにあらかじめ定め、その本数に対して実際に存在する苗の本数割合を計算し、これらを合算して算出される。更新指数が1で更新に必要な本数を満たしているとされている。

2. トピック

広葉樹林育成における動物の食害について

平成28年2月4日・5日、北海道森林管理局は、森林・林業に係る技術情報等の交換を図るため、「平成27年度 北の国・森林づくり技術交流発表会」を開催しました。

釧路湿原森林ふれあい推進センターは、この発表会で「広葉樹林育成における動物の食害について」を発表しました。

これは、当センターが標茶町雷別地区国有林において実施している自然再生事業地で、植栽した広葉樹にエゾシカによる食害が発生したため、対策として防鹿柵を設置したところ、防鹿柵内で新たな動物による食害が発生したため、動物の特定と対策の探究を行ったものです。

I. 研究の背景

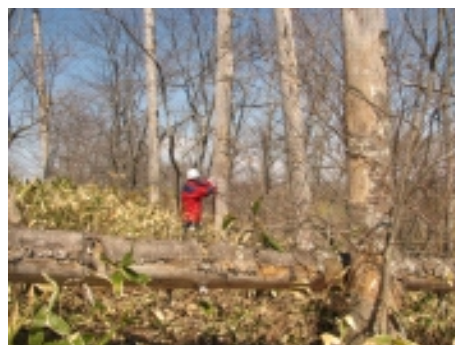
平成12年度に釧路湿原上流部の雷別地区においてトドマツの高齢級人工林が気象害に遭い大規模な立ち枯れが発生しました。

疎林や無立木地になった箇所を地表処理し、人工植栽及び天然更新により広葉樹主体の森林を造成する自然再生事業を行っています

エゾシカによる激しい食害が発生したため、防鹿柵を設置しました。

ところが防鹿柵内に新たな動物による食害が発生しました。

その動物を特定するための調査方法を検討のうえ実践し、その対策についての知見が得られました。



「立ち枯れしたトドマツ」

II. 自然再生事業地の概要とこれまでの実施事業の内容

当センターの行っている自然再生事業は、先ず地表処理し、人工植栽及び天然更新により広葉樹主体の森林を造成するものです。

事業地の土壌は厚層多腐植質黒ボク土、植生は下層の植物として特徴的なアキノウナギツカミ、ミゾソバ（湖岸、川岸、放棄水田、湿原など湿地に生育する）、上層の植物として尾根にもヤチダモ、ハルニシなど適潤から湿った土地を好む、植物が生育する環境です。

また、ササが下層植生のほとんどを占めています。



「アキノウナギツカミ」

平成12年度にトドマツの高齢級人工林が気象害に遭い大規模な立ち枯れが発生しました。その後、立枯木を伐採し、平成21年度に天然更新等を期待して地表処理を行いました。地表処理の区画の幅は3m×10m等です。

ササの多い地域なので、A0層を取り除きさらにA1層上部の土壌とともに下のササの根茎を除去しました。

ササの根茎を引き抜いたことが、土壌の不安定化を招き天然更新の遅れの一つの原因となっています。

広葉樹主体の森林を造成するため母樹のないところには、広葉樹を植栽しました。

なお、新たな動物による食害を受けた箇所は平成27年6月に植栽しました。

下記に図で例を示します。



この自然再生事業地における植生の推移を観るために、平成22年度からモニタリング調査を行っています。

防鹿柵設置以前のモニタリング調査結果として、A1層上部まで除去したことによる土壌中の養分の低下、土壌の不安定化、またこれらに加えてエゾシカの食害により、天然更新が順調に進んでいないことが分かりました。

一方植栽木は、ツリーシェルターで保護した箇所以外はエゾシカの食害を受け、ほぼ全滅の箇所もあるような状況でした。

しかし、エゾシカだけの食害としては、いくつかの疑問点が残りました。

1. 食害を受けた植栽木の割合が高すぎる。
2. 植栽木は地表処理した箇所のみ植えたが、これらの植栽木が被害を受けており、地表処理箇所周辺のササは食害を受けていない。
3. 自然再生事業地に隣接して牛の放牧地があり、エゾシカの餌が豊富なのになぜか植栽木も食べに来る。(牛の放牧地でエゾシカが牧草を食べているのを確認。)

新たな動物による食害を受けた箇所は、エゾシカによる食害対策として平成26年度に防鹿柵を設置した箇所です。

防鹿柵はステンレス線入りのネットで高さ2mで目は10cm×10cmです。

疑問点を踏まえエゾシカ以外の食害もあるのではないかと推測し、注意して防鹿柵内を観察しました。

防鹿柵設置後の植栽木においてエゾシカの食痕に似た被害木を発見、調査方法を検討のうえ被害を与えている動物の特定を行いました。



「設置した防鹿柵」

※ 写真の奥、黄色のネットが設置した防鹿柵。手前は地表処理を行い広葉樹を植栽した箇所。この場所等において新たな動物による食害が発生しました。

III. 調査方法

1. 食害木の食痕などの特徴を調査
2. 自動撮影カメラによる写真撮影とビデオ撮影

IV. 食痕等の特徴の調査結果

1. 食痕箇所は地際から20cm～50cmの高さ。
2. ヤチダモ、ハルニシ、ヤナギに被害があった。
3. 刃物で切ったような跡があった。
4. ヤナギには切断された先端部がそのまま残っているものがあった。



「刃物で切断したような跡」



「写真に写し出されたノウサギ」

ビデオ撮影では、高い頻度で人工植栽地を動き回るノウサギが撮影され、植栽木がノウサギにより食害される様子と草本類を食べている様子が撮影されました。

草本類を食べていることは、天然性稚幼樹も食べていると考えられ、天然更新がうまくいっていない原因の1つと考えられました。

またノウサギの糞が見つかりました。

これらにより、ノウサギによる食害と考えられましたので、対策を考えました。

V. ノウサギの食害対策の検討、実施及びその有効性

1. 食害されにくい植栽木を選ぶ。

食害を免がれた植栽木や天然性の稚幼樹を樹種別に調べた結果、ケヤマハンノキが食害を受ける割合が低く、植栽木として有望と判断されました。

2. 物理的に排除する

①ツリーシェルターを利用する。

②考案した防ウサギ柵を利用する。

この防ウサギ柵は、各地表処理箇所にもウサギが侵入できないため天然性の稚幼樹の保護にも有効です。



「ツリーシェルター」



「防ウサギ柵」

考案した防ウサギ柵は、ネットの目がノウサギが侵入できない細かいものが有効ではないかと考え、目が3.7cm×3.7cm、高さ130cmのを作成し、その有効性を調べました。(防鹿柵の目は10cm×10cmでノウサギは侵入できる)

防ウサギ柵の有効性を調べるため自動撮影カメラでビデオ撮影しました。

ビデオには、防ウサギ柵の前でのぞき込むノウサギ2羽が撮影され、その有効性が確認されました。

広葉樹を主体とする森林の育成については、エゾシカ、ノウサギ等の動物による食害の対策を検討しなければなりません。

VI. 今後の展開

広葉樹主体の森林の育成する上で障害になる動物の食害対策を実践しつつ検証を重ね、さらに実効性の高い食害対策に結びつけていくことにより、広葉樹主体の森林造成における「動物食害対策施業」の確立を目指したいと考えています。

3. この1年間の取組み

－ 取組みの経過 －

4月

4月23日（木） 平成27年度 森林ふれあい業務担当者打合せ（帯広地区）
（根釧西部森林管理署）

5月

5月2日（土） 釧路市こども遊学館ゴールデンウィークイベント「木のおもちゃであ
～3日（日） そぼう！」で木工教室等を実施（釧路市こども遊学館）

5月11日（月） 野生生物自動撮影調査を実施（パイロットフォレスト）
～6月8日（月）

5月18日（月） 標茶町立中茶安別小中学校「春の学校林活動」を支援
（中茶安別小中学校学校林）

6月

6月6日（土） くしろエコ・フェア2015で木工教室等を実施（釧路市こども遊学館）

6月13日（土） ボランティア植樹「雷別に植樹に行こう！」を開催
（雷別地区自然再生事業地）

6月17日（水） 第1回 雷別ドングリ倶楽部を開催（雷別地区自然再生事業地）

6月19日（金） 標茶町立虹別小学校の森林教室を支援（虹別小学校）

7月

7月6日（月） 野生生物自動撮影調査を実施
～8月3日（水） （雷別地区自然再生事業地・パイロットフォレスト）

7月10日（金） 釧路湿原自然再生協議会 第25回 再生普及小委員会に出席

7月15日（水） 第2回 雷別ドングリ倶楽部を開催（雷別地区自然再生事業地）

7月22日（水） JICA視察を支援（釧路町、鶴居村）

- 7月24日（金） 釧路湿原自然再生協議会
第1回 再生普及推進のための連携チーム会合に出席
- 7月31日（金） グイマツ及びカラムツ球果の成熟度調査を実施（上尾幌採種園）
～10月20日（火）

8月

- 8月26日（水） 標茶町立中茶安別小中学校「夏の学校林活動」を支援
（中茶安別小中学校学校林）
- 8月30日（日） 京都大学及び北海道大学の学生実習を支援（パイロットフォレスト）

9月

- 9月2日（水） 野生生物自動撮影調査を実施
～9月29日（火） （雷別地区自然再生事業地・パイロットフォレスト）
- 9月13日（日） 白糠町イベント「カミングパラダイス」で木工教室を開催
（白糠町ハミングロード）
- 9月16日（水） 第3回 雷別ドングリ倶楽部を開催
（雷別地区自然再生事業地）
- 9月18日（金） JICA視察を支援（パイロットフォレスト）

10月

- 10月7日（水） 第4回 雷別ドングリ倶楽部を開催（パイロットフォレスト）
- 10月18日（日） 「道民森づくりネットワークの集い」共働参加（江別市野幌森林公園）
- 10月23日（金） 標茶町立中茶安別小中学校「秋の学校林活動」を支援
（中茶安別小中学校学校林）

11月

- 11月7日（土） 2015「木育・森づくりフェア」で木工教室を実施
（イオンモール釧路昭和）
- 11月10日（火） 森林ふれあい推進センター等事業検討会を主催
～11日（水） （釧路湿原森林ふれあい推進センター）

- 11月20日（木） 釧路湿原自然再生協議会
第15回 森林再生小委員会に出席
- 11月24日（火） 釧路湿原自然再生協議会
第22回 自然再生協議会事務局会議に出席

12月

- 12月4日（金） 釧路湿原自然再生協議会
第2回 再生普及のための連携チーム会合に出席
- 12月5日（土） 釧路市こども遊学館イベント サンタさんが来てくれるかも？
「すてきなクリスマスボード」で親子木工教室を実施
（釧路市こども遊学館）
- 12月16日（水） 釧路湿原エゾシカ対策検討会に出席

1月

- 1月15日（金） 釧路湿原自然再生協議会 第26回 再生普及小委員会に出席
- 1月19日（火） 釧路湿原自然再生協議会
第22回 自然再生協議会事務局会議に出席
- 1月27日（水） 釧路湿原自然再生協議会
第1回 地域づくり小委員会に出席

2月

- 2月3日（水） 第5回 雷別ドングリ倶楽部を開催（庁舎会議室ほか）
- 2月4日（木） 北の国・森林づくり技術交流会で発表
～5日（金） （北海道大学学術交流会館）
- 2月29日（月） 第22回 釧路湿原自然再生協議会に出席

3月

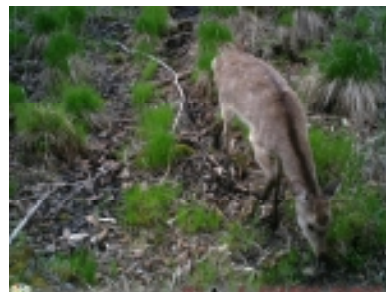
- 3月14日（月） 平成27年度 第2回 釧路地域林政連絡会議に出席

自然再生・生物多様性の保全

- 5月11日（月）～6月8日（月）
野生生物自動撮影調査を実施

パイロットフォレスト（厚岸町）で、外来生物法で特定外来生物に指定されているアメリカミンクの生息状況を把握するため、自動撮影カメラを使用して調査を実施しました。

アメリカミンクの姿は確認できませんでしたが、普段よく目にするエゾシカが撮影されていました。



- 6月13日（土）
ボランティア植樹「雷別に植樹に行こう！」を開催

釧路湿原森林ふれあい推進センターは、雷別自然再生事業地で、ボランティア植樹「雷別へ植樹に行こう！」を行いました。

このイベントは、新聞、釧路湿原自然再生協議会 再生普及行動計画オフィスが配信する「ワンダグリンダニュース」、北海道森林管理局のホームページ等で参加者を募ったものです。

当日は、出発直前に雨が降りだすあいにくの天候でしたが雨が、一休みしている間に植樹活動を行い、午前中の作業は終了。昼食後、再び雨が降ってきたので、やむなく作業を切り上げました。



- 6月17日（水）
第1回 雷別ドングリ倶楽部を開催

雷別地区自然再生事業地の森づくり活動（自然再生活動）を行うボランティア組織、「雷別ドングリ倶楽部」が今年度第1回目の活動を行いました。

今回は、広葉樹苗木（ハルニレとヤチダモ）の植樹とツリーシェルターのメンテナンス等を行なっています。

なお、参加者のなかには、6月13日に行ったボランティア植樹「雷別へ植樹に行こう！」に参加された方もおり、みなさん自然再生（森林再生）への関心が高いようです。



- 7月6日（月）～8月3日（水）
野生生物自動撮影調査を実施

雷別地区自然再生事業地及びパイロットフォレストで、自動撮影カメラを使用して野生生物生息調査を実施しました。

この調査は、両地区に生息する生物（哺乳類等）をモニタリングし、自然環境の状態を把握することを目的に、毎年7月と9月の2回行なっています。

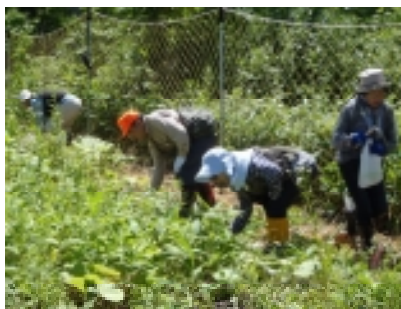


- 7月10日（金）
釧路湿原自然再生協議会 第25回 再生普及小委員会に出席
- 7月15日（水）
第2回 雷別ドングリ倶楽部を開催

第2回 雷別ドングリ倶楽部の活動は、昨年秋と今年の春に広葉樹苗木を植えた箇所での下刈作業。

全員草刈り鎌を持って、作業開始。小さな苗木と自然に生えてきた稚樹があるので、これらを雑草と間違わないよう慎重に作業を進めました。

先週末から、最高気温30度前後の天候の続く標茶町。この日も28度と暑くなりました。注意しなければいけないのが熱中症。水分を十分に摂りながら作業を進め、下刈作業は無事終了。参加した皆さんには、辛い下刈り作業で十分に汗を流して頂きました。

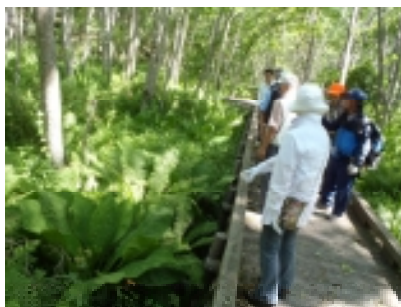


午後からは、釧路町の達古武湖畔にある達古武オートキャンプ場へ移動しました。

この周辺は、釧路湿原国立公園の特別地域になっています。キャンプ場からは、夢ヶ丘展望台まで約2.3kmの達古武夢ヶ丘歩道が整備されています。

この歩道は、展望台に向かい左は湿地、右は森林になっていて、所々で山側（森林）から湧水が湿地に流れています。

普段、活動している雷別は釧路湿原へ流れ込む河川の源流部に位置していますが、下流域の湿原を見てもらい、なぜ森林再生が必要かを実感してもらうため、この歩道を歩きながら、森林から湧き出る澄んだ水、その水のまわりで育つ湿地の植物を目の前で見てもらい、雷別での自然再生（森林再生）の大切さを実感してもらいました。



- 7月24日（金）
釧路湿原自然再生協議会 第1回 再生普及推進のための連携チーム会合に出席

・ 9月2日（水）～29日（火）
野生生物自動撮影調査を実施

雷別地区自然再生事業地及びパイロットフォレストで、自動撮影カメラを使用して野生生物生息調査を実施しました。

この調査は、7月に行った調査と同じ目的で定点観測を行っているものです。

今回の映像には、タンチョウの姿が映っていました。



・ 9月16日（水）
第3回 雷別ドングリ倶楽部を開催

第3回 雷別ドングリ倶楽部は、昨年の秋に雷別ドングリ倶楽部で設置した防鹿柵周囲の笹刈りとキノコ観察の二本立て。

防鹿柵の周囲は、笹が繁茂しており、スカートネットと呼ばれる網が笹で持ち上げられたり、異常個所が発見できない等の恐れがあることから、笹刈りを実施しました。

網を切らないよう慎重に鎌を振り、一汗かいたところで作業は終了。パイロットフォレストに向かいました。

ここからは、雷別ドングリ倶楽部の会員であり、「北海道キノコの会」の事務局長である奈良泰世氏に講師をお願いしてキノコ観察の始まりです。

冒頭に「キノコと言いつと、食べられる。食べれない、になってしまいますが、落ち葉や枯れ枝、倒木を分解する森の掃除屋という見方で観察しましょう。」と話があり、観察場所に移動。パイロットフォレストの大部分を占めるカラマツ林のほか、アカエゾマツと広葉樹の混交林で観察しました。

さて、どんなキノコがあるのでしょうか。

講師は、林内でキノコを見つけると一つ一つ解説してくれます。

なかには、毒キノコや冬は虫の姿で、夏にはキノコになるという冬虫夏草と呼ばれるキノコも確認できました。

最後に、白く球体で長い針を垂らす美しい姿の「ヤマブシタケ」を紹介してくれました。



・10月7日（水）

第4回 雷別ドングリ倶楽部を開催

第4回 雷別ドングリ倶楽部の活動は、パイロットフォレストで「枝打ち」作業。作業を行ったのは、前回のキノコの観察会で、ハナイグチ（ラクヨウ）を観察した場所、つまりカラマツ林（植林して10年くらい）です。初回間伐実施前のカラマツ林、アカエゾマツ林といえ、枝が無数にあり、槍ぶすまのようで、林内を歩くのも容易でなく、周囲への注意を怠ると、枝で目を突く等のケガをする恐れがあります。

そんな作業環境なので、参加した皆さんには、目を保護するためのゴーグルを着装してもらい、ノコギリを使用して、枝打ち作業を行なってもらいました。

ノコギリ片手に、枝を相手に奮闘した結果、枝を気にせず林内を歩ける、すっきりした林になりました。

作業終了後は、パイロットフォレストにそびえ立つ望楼に移動し、秋の森林の展望を楽しみました。



・11月20日（木）

釧路湿原自然再生協議会 第15回 森林再生小委員会に出席

釧路湿原自然再生協議会 第15回森林再生小委員会が釧路地方合同庁舎で開催されました。

森林再生小委員会は、釧路湿原自然再生協議会内に設置されており、森林の再生（野生動物の生息環境修復を含む）に関する実施計画とその実施状況、モニタリング結果等について検討しています。

みなさんのご協力のもと、釧路湿原森林ふれあい推進当センターが実施している「雷別地区自然再生事業」と「達古武地域自然再生事業」（環境省実施）の両自然再生事業の実施状況等の説明及びこれに関する議論が行われました。



・11月24日（火）

釧路湿原自然再生協議会 第22回 自然再生協議会事務局会議に出席

・12月4日（金）

釧路湿原自然再生協議会 第2回 再生普及のための連携チーム会合に出席

・ 1月15日（金）

釧路湿原自然再生協議会 第26回 再生普及小委員会に出席

釧路地方合同庁舎で釧路湿原自然再生協議会 第26回再生普及小委員会が開催され、釧路湿原森林ふれあい推進センターも出席しました。

再生普及小委員会では、「地域で取組む自然再生」として、「人と森に優しい森林生産」に取り組む鶴居村森林組合が紹介されました。

釧路湿原の上流域で作業を行う鶴居村森林組合では、オーストリアの技術を取り入れた森林管理を行っています。

また、作業用機械を林内に入れないで伐採した木を運び出す作業方法、林内に作設する作業用道路に土砂流失に配慮した工夫を凝らす等して、山に負担をかけない作業を実践しています。

「湿原を題材とした学習素材の収集、活用の促進」では、再生普及小委員会（環境教育ワーキンググループ）が作製した「釧路湿原食物連鎖イラスト」が、釧路市立鶴野小学校3年生の理科「昆虫の体のつくり」の授業で活用された事例が報告されました。

このイラストは、写真で表現できない世界が描かれており、使い手の工夫で、いろいろと活用できるもので、当センターも使わせてもらっています。



・ 1月19日（火）

釧路湿原自然再生協議会 第22回 自然再生協議会事務局会議に出席

・ 1月27日（水）

釧路湿原自然再生協議会 第1回 地域づくり小委員会に出席



・ 2月3日（水）

第5回 雷別ドングリ倶楽部を開催

雷別ドングリ倶楽部が、今年度最後となる第5回目の活動を行いました。今回の活動は、この1年間の活動の振り返りと樹木の観察です。秋に落葉して、枯れ木のように見えるこの時期にですか？はいそうです。冬だからやるのです。

観察するのは樹木の冬芽（とうが、ふゆめともいいます。）だからです。冬芽は、夏から秋にかけて作られ、越冬する芽のこと。

どれも同じものに見える冬芽ですが、観察すると個性豊かで、樹木の種類を見分けるのに役立ちます。

観察場所は、釧路湿原森林ふれあい推進センター周辺。事前に屋内で予習を行いました。

教材は、冬芽を解説した資料と実物の冬芽のついた木の枝。釧路周辺で見られる広葉樹を20種用意しました。

これらを使って、樹種ごとの特徴や見分けるポイントをクイズ形式で、センター職員が解説しました。

知識をつけたところで、屋外に移動して、ミズナラ、シナノキ、ダケカンバ、ヤチダモ等を一本一本観察。冬芽の特徴を確認しました。

樹種によっては、冬芽が高い位置にあり、熱心に観察したため、首が痛くなった人もいたかもしれません。

雷別ドングリ倶楽部の皆さん、寒さのなかでの活動お疲れ様でした。



・ 2月29日（月）

第22回 釧路湿原自然再生協議会に出席

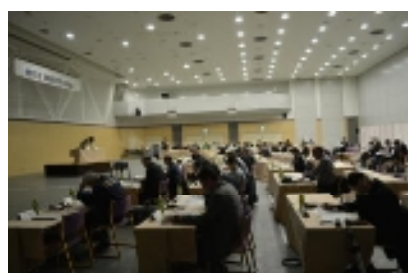
今回の協議会では、①釧路湿原自然再生協議会構成員の公募結果 ②協議会の収支報告 ③小委員会開催報告 ④釧路湿原自然再生基金の活用方法 ⑤その他、について報告及び協議が行われました。

釧路湿原森林ふれあい推進センターは、③小委員会開催報告で、第15回森林再生小委員会（平成27年11月20日開催）での、実施状況の説明と議論の結果を踏まえ、平成27年度の事業実施事項として、

- ・ 鹿侵入防止柵の設置
- ・ 天然更新区域における植栽
- ・ 人工植栽区域における補植及びツリーシェルターの被覆

調査事項として、

- ・ 地表処理区画の植生調査
- ・ 鹿侵入防 止柵内の植栽木等の被害調査等についての報告を行いました。



森林環境教育

- 5月2日（土）～3日（日）
釧路市こども遊学館ゴールデンウィークイベント
「木のおもちゃであそぼう！」で木工教室等を実施

4月29日～5月6日の8日間、釧路市こども遊学館で、GWイベント「木のおもちゃであそぼう！」が開催されました。

このイベントに釧路湿原森林ふれあい推進センターは、5月2日（土）・3日（日）の2日間、来場した皆さんに、木の輪切りをベースに、まつぼっくり、ドングリ等の自然素材を組み合わせ、木工工作を楽しんでもらいました。

また、全期間を通じて会場に用意した木製つみき「つみき〜」のコーナーも、お子さん、家族連れの遊ぶ姿があり、木工工作と木製つみきで、多くの皆さんに、木のぬくもりを体験してもらうことができました。



- 5月18日（月）
標茶町立中茶安別小中学校「春の学校林活動」を支援

釧路湿原森林ふれあい推進センターは、標茶町立中茶安別小中学校において、「春の学校林活動」を支援しました。

今回の活動は、実のなる木の冬囲いはずし、学校林清掃活動、巣箱新規更新作業の3つ。

今年の冬は、暴風雪が多く、中茶安別では国道が何度も通行止めになったそうで、学校林の樹木も、倒れたり、枝が折れたり、雪の重みで幹が湾曲したりと被害が発生しているようです。

また、被害を受けた樹木のなかには、道路や散策路に倒れたり覆いかぶさり、通行の妨げになっているものもあることから、この倒木等を整理するのが学校林清掃活動で、当センターの出番になります。

使用する道具はノコギリ。木を切断するのに便利な道具ですが、使用方法を間違えると怪我をしますので、ノコギリの使い方等の説明を行った後、二つのグループに別れ活動を開始です。

高学年の生徒がノコギリで根元等から切断し、持ち運べるサイズに切って、みんなでかたづけ、散策路は通行可能になりました。



・ 6月6日 (土)
くしろエコ・フェア2015で木工教室等を実施

釧路市子ども遊学館を会場に「くしろエコ・フェア2015」が開催されました。

このくしろエコ・フェアは、環境月間の6月に開催されており、釧路湿原森林ふれあい推進センターも毎年参加しているイベントです。

今年は30団体が参加。当センターは、例年、子ども達に人気の「木の実で工作」(国有林で採取した木の枝や松ぼっくり等を材料に工作を楽しんでもらう。)と「つみっき〜で遊ぼう」(木製つみ木で自由に遊んでもらう。)のコーナーを用意しました。

両コーナーは、終日にぎわいを見せ、訪れたみなさんに、木の持つ独特のぬくもり、肌触り、色、音、匂いを感じてもらい、木の良さをPRすることができました。



・ 6月19日 (金)
標茶町立虹別小学校の森林教室を支援

釧路湿原森林ふれあい推進センターは、標茶町虹別小学校で行われた、総合的な学習『学校の敷地内の植物』に講師として参加。5・6年生の11名と校庭に生えている樹木等の観察を行いました。

用意した資料に基づいて、葉の形や花の形の特徴等から植物の分類・見分け方を解説。また、最近授業で学習した外来種についても説明を行い。資料、樹木図鑑、植物図鑑、虫メガネを持って校庭の樹木、植物の観察をしていきます。

敷地内には、カラマツ、イチイ等の針葉樹。ミズナラ、ホオノキ、ナナカマド等の広葉樹があるようです。

葉っぱを手に取り、特徴をよ〜く観察し、センター職員の説明をメモに取り、図鑑で確認して樹種名等を確定します。

生徒のみなさんは、植物に興味があるようで、私たちセンター職員も楽しく進めていたところ、気が付けば、終了の時間となってしまいました。



・ 8月26日（水）

標茶町立中茶安別小中学校「夏の学校林活動」を支援

標茶町立中茶安別小中学校の学校林「るんるんフォレスト」で「夏の学校林活動」が行われ、釧路湿原森林ふれあい推進センターもこれを支援しました。

今回の活動は、小学1～3年生のグループが「萌芽更新作業」、小学5・6年生と中学生のグループは、昨年に続いて、地図作りのための「測量」です。

・「萌芽更新作業」グループ

テーマは、「引き継がれる生命」。ミズナラを題材に、発芽や萌芽を学習しました。

【種から】

昨年の秋にミズナラの種子（ドングリ）を埋めた箇所で、発芽して生長しているのを確認しました。

【切り株から】

切り株を見ると、切り株から芽が出ている樹種と、何も出ていない樹種があります。

ミズナラの切り株からは、たくさんの芽が出ていて、その芽が生長し小枝のようになっています。

ミズナラには、「種→発芽」以外にも仲間を増やし生命を引き継ぐ能力があるのです。

ただし、このまま放置しておくと、ひ弱な木になってしまうので、「芽かき」といって、太くて丈夫な物を残すように、残す萌芽を決めて他の萌芽を切って本数の調整をします。

この「芽かき」をノコギリを使い行いました。

・「測量」グループ

こちらは、昨年と同じ作業なので、みなさん慣れた手つきで、測量機器を扱っています。

学校林には、動物名が付けられた散策路が数路線ありますが、池の畔にあるツリーハウスに通じる、2路線を2組みに別れて測量です。

名前は、「キタキツネの道」と「タヌキの道」。森林の中の道なので、くねくねと曲がり、坂道があり、場所によっては、立木や枝で見通すことができない場合があります。

これらを考慮して、測点を決め、測量を進めます。実際に、距離や坂道の傾斜を測ってみると、思っていた数字（距離、傾斜）と違っているようで、「えっ、こんなにあるの！」と声が聞こえます（見た目と実測では大きな差があったようです。）。

両グループとも、予定した時間内に作業を終了できました。

手入れをしたミズナラの生長と測量の成果が楽しみです。



・ 9月13日 (日)
白糠町イベント「カミングパラダイス」で木工教室を開催

9月12日、13日の両日、白糠駅近くの南通り商店街（ハミングロード）を歩行者天国にして、「第23回カミングパラダイス」が開催されました。

会場には、町民の皆さんによる露店やフリーマーケットがたくさん並んでいます。

釧路湿原森林ふれあい推進センターは、2日目の13日（日）に、木の輪切り、松ぼっくり、どんぐり等で、木工工作を楽しんでもらおうと、テントをお借りして参加したのですが、この日は朝から雨が降っています。

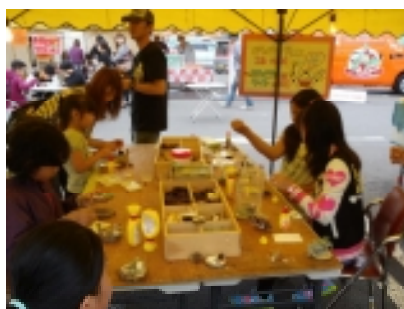
そのため人通りも少なく、会場を歩く人は傘をさしています。

雨が止みません。(いつまで降るのか)

テントに誰も来ません。(まいったなあ)

ところが、雨が小降りになり、人の数が多くなってくると、当センターのテントにも、子ども達が集まり、急ににぎやかになりました。(良かった～)

この日、天候には恵まれませんでしたが、訪れた人達に木工工作を楽しんでもらうことができました。



白糠町さんから、いただいた

「カミングパラダイス」

のポスターです。

・10月23日（金）

標茶町立中茶安別小中学校「秋の学校林活動」を支援

標茶町立中茶安別小中学校の学校林「るんるんフォレスト」で「秋の学校林活動」が行われ、釧路湿原森林ふれあい推進センターもこれを支援しました。

冬を目前にして、今回の活動は、「学校林の冬囲い」と「学校林に住む動物たち」。昨年は、吹雪や湿雪で被害が発生しているのので、雪への備えは大切ですね。この作業のほとんどを、子ども達だけで行い短時間で作業が終了しました。

ここからが、当センターの出番となります。

お題の「学校林に住む動物たち」。といっても動物が子ども達の前に現れるわけもないので、事前に自動撮影カメラを設置して準備をしました。

これを使えば、たくさんの動物を映せると期待していたのですが、写っていたのは、タヌキとネズミだけでした。

映像だけではつまらないので、ネズミ取りを仕掛け、ネズミも用意。これらを教材に、動物と森林・林業との関わりについて説明を行いました。

主役となったのが、捕えたエゾヤチネズミとエゾアカネズミ。

エゾヤチネズミは、植林した木を食べてしまい林業被害をもたらします。皆の植えたカラマツの中に、枯れたものがありますが、このネズミに食べられたのが主な原因です。

エゾアカネズミは、ドングリを食べますが、地中に貯蔵する習性があり、食べ忘れたドングリは、条件が良ければ発芽します。このような話をすると、「このネズミ見たことある。」「リスとおなじだ。」と声が上がります。

「皆で手入れをして、動物の住める学校林にしましょう。」と言ったところで、ちょうど時間となりました。



・11月7日（土）

2015「木育・森づくりフェア」で木工教室を実施

イオンモール釧路昭和 サンコート広場で、2015「木育・森づくりフェア」が開催されました。

この催しは、『木育の理念を基本とした道民との協働による森林づくりを推進するため、地域住民に木とふれあう機会を提供し、木の良さ、自然の大切さ、森づくりの重要性などに対する理解を深めてもらうこと。』を目的に、国、北海道、市町村、関係団体などが連携・協力して行なっているものです。

森づくりの国の機関といえば、林野庁。ということで、釧路地方に所在する林野庁の下部組織である根釧西部森林管理署と釧路湿原森林ふれあい推進センターが共同で出展しました。

当センターは、松ぼっくりが主役の「ミニツリーづくり」を用意しました。

これは、松ぼっくりをクリスマスツリーのモミの木に見立て、細い木の幹を輪切りにした台座に固定。お好みで、星（ビーズ等）を付けたり、雪（手芸用の綿）を降らせたりと装飾をほどこし完成させるものです。

松ぼっくりと輪切りの台座を選び、飾り付けを考え、ホットボンドを使いヤケドに注意しながら、各パーツをイメージどおりに接着すれば完成です。

部品数が少ない、短時間で出来る。この手軽さが、お子さん、親子連れに人気があったようです。

また、ご年配の方が立ち止まり、じっくりと見ていたのが、根釧西部森林管理署が展示したパネル。こちらは、荒涼とした広大な山火事跡地を森林によりみがえらせた「パイロットフォレスト」の森づくりを紹介したもので、造成作業を撮影した、懐かしい白黒の写真も含まれています。

以上が林野庁関係の出展ですが、会場には、木製遊具や様々な体験コーナーと「釧路地方の木材を活用した木製品」、「木育活動」等のパネルがならび、買物に訪れた人々が立ち寄り、終日賑わっており、来場されたみなさんに、木の良さ、自然の大切さ、森づくりの重要性等の理解を深めてもらうことができました。



・12月5日（土）

釧路市こども遊学館イベント サンタさんが来てくれるかも？「すて木なクリスマスボード」で親子木工教室を実施

12月、釧路市こども遊学館では、クリスマス関連のイベントが数多く実施されました。

その中のひとつが、サンタさんが来てくれるかも？「すて木なクリスマスボード」です。

このイベントに参加したのは、事前に申し込みのあった小学生の親子20組。（募集した人数に達して満員御礼です。）

釧路湿原森林ふれあい推進センターは、森林で採取した松ぼっくり、どんぐり、トドマツのボードなど木工工作の材料を持ち込み、このイベントの支援を行いました。

クリスマスの装飾といえば、緑の葉と赤い実がきれいなセイヨウヒイラギですね。

しかし、当センターが準備した松ぼっくり等は、全て乾物なので、色も茶色系ばかりです。

緑色がほしくて、この時季でも入手可能なニオイヒバと地衣類のサルオガセの2点を用意しました。

（人気はいかほどに。）

早速、「これ何ですか？」と緑色の2品への質問がたくさんありました。

親子で材料を選び、（サルオガセが人気のようです。）デザインを考え、工具・ホットボンドで作業を進めていきます。

困った時は、お父さん・お母さんに少し手伝ってもらい、「すて木なクリスマスボード」が完成しました。

なお、参加者の中には、昨年に続いて2度目という親子もいて、お話を伺うと、当センターのイベントを楽しみにしているそうです。



その他の取組み

- 7月22日（水）
JICA視察を支援
- 7月31日（金）～10月20日（火）
グイマツおよびカラマツ球果の成熟度調査を実施

林木育種センター北海道育種場が行う「グイマツおよびカラマツ球果の成熟度調査」の調査協力を上尾幌採種園で実施しました。調査の観察対象木になっているカラマツから球果（松ぼっくり）を採取するもので、期間中10日毎に調査・観察を実施しました。

- 8月30日（日）
京都大学及び北海道大学学生実習を支援

京都大学農学研究科 森林・林業政策学等の教授及び京都大学・北海道大学の学生が、国有林における湿原の保護管理と周辺の森林資源管理の状況を見学するため、パイロットフォレストを訪れました。

釧路湿原森林ふれあい推進センターでは、パイロットフォレスト造成の歩み等の解説を行いました。

- 9月18日（金）
JICA視察を支援
- 10月18日（日）
「道民森づくりネットワークの集い」に共働参加

札幌市、江別市、北広島市にまたがる野幌森林公園を会場に、森林の営みを楽しく親しみやすく伝えるイベント「道民森づくりネットワークの集い2015」が開催され、釧路湿原森林ふれあい推進センターも共働参加しました。

当センターは、森づくりエリア（登満別の森林）で行なわれた森林ガイドツアーの案内人を務め、約1時間の散策コースで、樹木・野草等の解説を行ない、ツアーに参加したみなさんに、秋の森林を楽しんでもらいました。



・11月10日（火）～11日（水）
森林ふれあい推進センター等事業検討会

北海道森林管理局の4つの「森林ふれあい推進センター」（石狩地域、常呂川、駒ヶ岳・大沼、釧路湿原）と「知床森林生態系保全センター」、北海道森林管理局が参加する「ふれあいセンター等事業検討会」を、釧路湿原森林ふれあい推進センターで開催しました。

この事業検討会は、「各センターが取り組んでいる事業の情報交換とフィールドの見学により知見を広め、また、各センターの課題等を検討して、今後の事業に活用すること」が目的です。

初日は、当センターが自然再生事業（森林再生）を実施している標茶町の雷別地区国有林で、現地検討会を行いました。

現地では、天然更新、人工植栽の状況、防鹿柵の設置、エロージョンの発生等の説明を行いました。

2日目は、根釧西部森林管理署会議室で討論会を実施。

各センターは、所在する地域の実情にあわせた特徴ある活動を実施していますので、それぞれの活動報告と意見の交換を行いました。

活動のなかで培った技術を有効に活用するため、成功したことだけでなく、失敗した事例も含めた情報の共有化を各センター間で行なうことを確認しました。



・12月16日（水）
釧路湿原エゾシカ対策検討会に出席

・2月4日（木）～5日（金）
北の国・森林づくり技術交流会で発表

北海道大学学術交流会館（札幌市北区）を会場に、森林・林業に係る技術情報等の情報交換を図るため、「平成27年度北の国・森林づくり技術交流発表会」（主催 北海道森林管理局）が開催されました。

この発表会には、林野庁職員だけでなく、北海道の職員、市町村の職員、民有林関係者や高校生・大学生と道内各地から参加があり、森林づくり、森林環境教育、森林・林業に関連するそれぞれの取組活動を、「森林技術部門」、「森林保全部門」、「高校部門」、「森林ふれあい部門」で、38課題の発表を行ったものです。

当センターは、森林保全部門で「広葉樹林育成における動物の食害について」を発表しました。

当センターでは、標茶町雷別地区国有林で、広葉樹を主体とした森林再生を行っていますが、エゾシカによる食害が多数発生したため、防鹿柵を設置しました。

しかし、柵内で新たな動物による食害が発生したため、その対策について報告したものです。

今後とも動物食害対策を取り入れ、広葉樹育成に努めたいと思います。



・ 7月3日(月)
 広報紙「飛鶴の森林から」第100号を発行

釧路湿原森林ふれあい推進センターの広報紙「飛鶴の森林から」が平成27年7月3日発行で第100号を迎えました。

平成17年7月に、釧路湿原森林環境保全ふれあいセンターが発行した「インフォメーション」から始まり、第2号からは「森林環境教育インフォメーション」、第13号からは「インフォメーション」、第38号からは「飛鶴の森林から」と名称を変え10年で第100号に到達しました。

これが平成17年7月に発行した第1号の「インフォメーション」です。



インフォメーション



林野庁 北海道森林管理局
釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター
 〒085-0825 釧路市千歳町6-11
 TEL 0154-44-0533 FAX 0154-41-7305

当ふれあいセンターは国有林をフィールドとして北海道の多様な自然との共生に向けた自然再生活動に取り組むNPO活動支援や森林環境教育等のフィールドの提供、技術指導などを支援しております。
 主な活動区域は釧路湿原の上流域で弟子屈町、標茶町、釧路村、阿寒町、厚岸町、釧路町の国有林です。

『釧路の森林・森林は友達』ガイドブックの作成
 16年度末に指導者のためのガイドブックとして作成しました。
 『釧路の森林』は A4 サイズで学校の先生たちが子どもたちを指導する際の参考にと、ふれあいセンター活動区域内にある1万ヘクタールの一大造林地パイロットフォレスト(標茶町・厚岸町国有林)を紹介しながら森林の役割を説明しております。

『森林は友達』は A 5サイズで釧路周辺の森林で見られる主な樹木、動物を紹介しながら森林に入る際のマナー等が載っており、森林に入るときポケットに入れて持ち歩けるサイズです。
 それぞれ数に限りはありますが『森林は友達』は子どもたちにも渡せるよう考えておりますのでご要望があればお知らせ下さい。




アンケート 5月末に主な活動区域内及び釧路市の各小中学校を対象に今後のふれあいセンター業務の参考とするため森林環境教育について実施しました。 まだ集約の途中ですが、
 ① ふれあいセンターがお手伝いをするならの? 関いで一番多かった回答が、森林教室(屋内・野外)次いで木工教室、体験林業の順でした。
 その他として環境教育プログラムの提供、校庭内の樹木の名前(樹名板の設置)森林と湿原の連携方法等の要望も来ております。

森 林 環 境 教 育

早速、釧路市の専小學校の高橋校長先生より要望があり、6月24日(金)に教室と校庭を使い森林環境教育を実施しました。 教室で紙芝居を使い森林の働きと大切さを話し、その後植物の観察方法、実際に虫眼鏡を片手に校庭でたんぽぽやエゾマツ、ナナカマド、シラカバの幹や葉を観察して回りました。
 子どもたちから、森林を大切に
 する気持ち、先生
 から、指導者とし
 ての心構え等聞
 かされ、少しでも力
 になれたと実感しま
 した。 今後も、地
 域の要望等を聞く中
 で、指導・普及を
 していきたいと思
 います。






(標茶町国有林・エゾナラ
巨木の前で森林教室)



から別寒辺牛湿原を望む)

ご意見ご要望お待ちしております。



釧路湿原森林ふれあい推進センター

広報紙「題字」の移り変り



インフォメーション

林野庁 北海道森林管理局
釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター



初代
平成17年 7月発行 第 1号

※「インフォメーション」の名称でスタートしました。



森林環境教育
インフォメーション

林野庁 北海道森林管理局
釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター



2代目
平成17年 8月11日発行 第 2号
～
平成17年10月14日発行 第 4号

※「インフォメーション」から「森林環境教育インフォメーション」に名称が変更になりました。



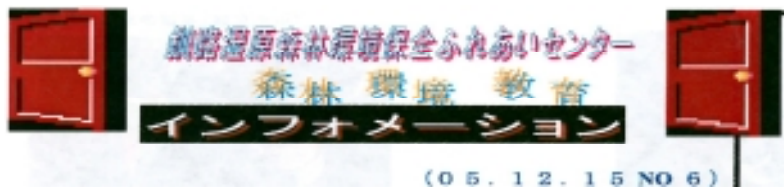
釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター

森林環境教育
インフォメーション

(17. 11. 15 NO. 5)



3代目
平成17年11月15日発行 第 5号



4代目

平成17年12月15日発行 第6号



5代目

平成18年 1月16日発行 第7号

~

平成18年 3月16日発行 第9号



6代目

平成18年 4月18日発行 第10号



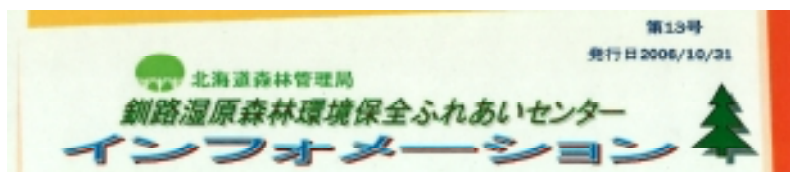
7代目

平成18年 5月22日発行 第11号



8代目


平成18年 6月28日発行 第12号



9代目

平成18年10月31日発行 第13号

※「森林環境教育インフォメーション」から再び「インフォメーション」に名称が変更になりました。

※  国有林のシンボルマークが登場しました。

(国有林のシンボルマークについては、「飛鶴の森林から」平成26年7月4日発行 第88号をご覧ください。)

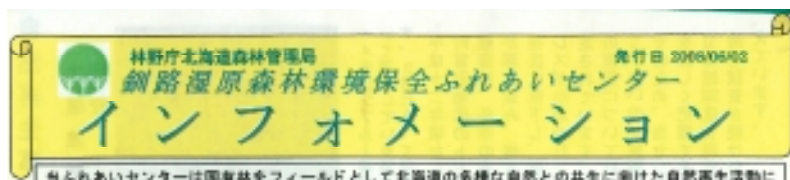


10代目

平成19年 4月24日発行 第14号

～

平成19年 7月13日発行 第15号

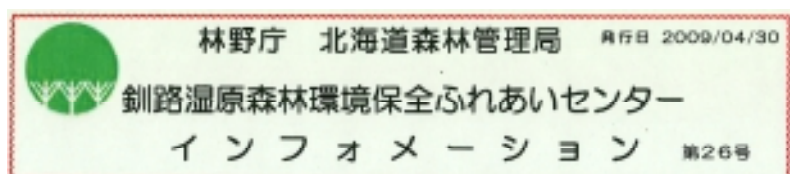


11代目

平成20年 6月 2日発行 第16号

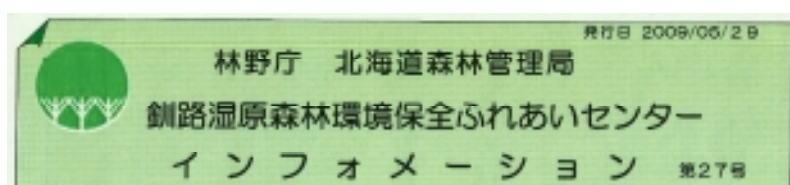
～

平成21年 3月19日発行 第25号



12代目

平成21年 4月30日発行 第26号

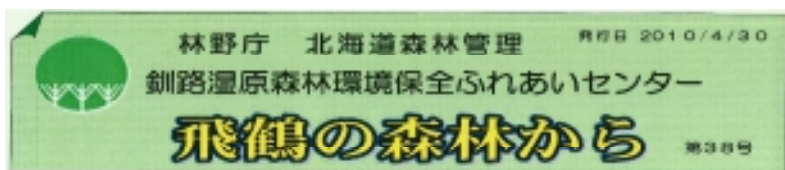


13代目

平成21年 5月29日発行 第27号

～

平成22年 3月31日発行 第37号



14代目
平成22年 4月30日発行 第38号
～
平成25年 3月29日発行 第73号

※「インフォメーション」から「飛鶴の森林から」に名称が変更になりました。



15代目
平成25年4月30日発行 第74号
～
平成27年 1月 8日発行 第94号

※「釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター」から「釧路湿原森林ふれあい推進センター」に組織の名称が変更になりました。

※タンチョウが登場しました。



16代目
平成27年 2月 6日発行 第95号
～
平成27年 4月 6日発行 第97号

※なんて読むの？「飛鶴の森林から」に「^{ひかく}飛鶴^{もり}の森林から」とふりがなをつけました。

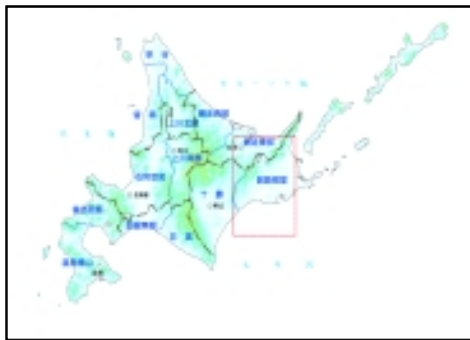


17代目
平成27年 5月 8日発行 第98号
～

※タンチョウのいる湿原風になりました。

4. 活動区域及び所在地

釧路総合振興局管内の釧路市、釧路町、厚岸町、浜中町、標茶町、弟子屈町、鶴居村、白糠町の1市6町1村が当センターの活動区域です。



この地図は、国土地理院発行の2万5千分の1地形図釧路(釧路)を使用したものです。



国民の森林・国有林

林野庁 北海道森林管理局
釧路湿原森林ふれあい推進センター

〒085-0825 北海道釧路市千歳町6番11号

【IP】050-3160-5787 【TEL】0154-44-0533

【FAX】0154-41-7305

【E-Mail】h_kushiro_f@rinya.maff.go.jp

【URL】http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/kusiro_fc/index.html